

# 京都・長岡京跡左京二条四坊三町

ながおかきょう

さきょう

たる。

1 所在地 京都市南区久世東土川町金井田・正登

2 調査期間 左京第三九九次調査 一九九七年(平9)四月~一〇月

3 発掘機関 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

4 調査担当者 平良泰久・小池 寛・中川和哉・八木厚之・

中村周平・野島 永

5 遺跡の種類 都城跡

6 遺跡の年代 弥生時代中期~中世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(京都西南部)

(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

研究センターでは、一九九三年度より五年間にわたり、中央自動車道西宮線

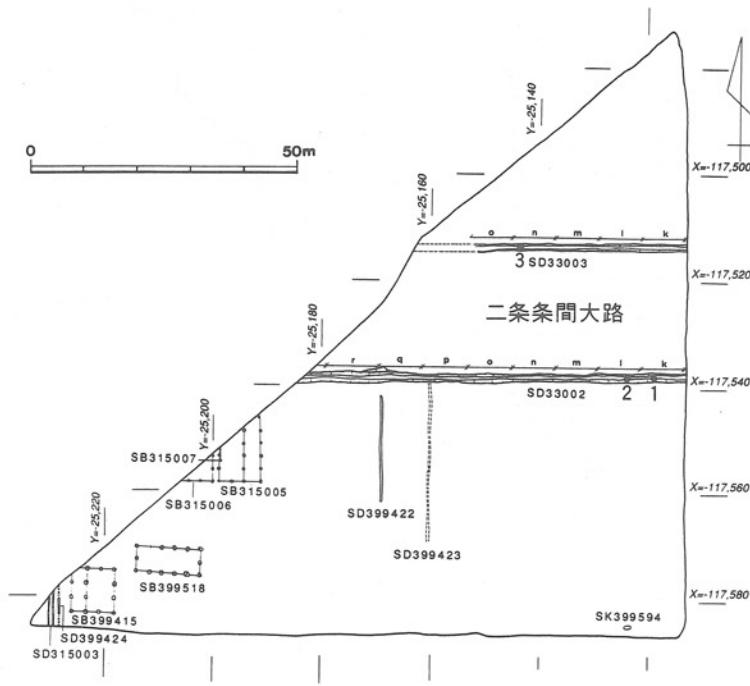
(名神高速道路)京都桂川

パーキングエリア建設に伴う発掘調査を行なってきた。

今回の調査(B-6・B-7地区)はその最終年度にあ

て、宮城東面街区の東三坊から東四坊にかけて、都合六町(長岡京左京二条三坊十四町・二条三坊十五町・二条四坊二町・二条四坊三町・

これまでの京都桂川パーキングエリア建設に伴う発掘調査によつ



B-6・B-7地区 長岡京期遺構平面図

二条四坊六町・二条四坊七町)にわたる調査を行なったことになる。

特に二条三坊十五町(旧呼称では南一条三坊十三町)は、宅地の大部 分が調査対象地となり、ほぼ一町全域の調査を行なうことことができた。

今回の調査地は、パーキングエリア建設予定地内の南西部にあた り、東三坊大路の東側、二条条間大路とその南北両宅地(左京二条 四坊二町と二条四坊三町)にあたる。木簡二点は、ともに二条条間大 路南側溝から出土した。二条条間大路南側溝は長岡京期に再度掘削 されており、木簡は新しく掘削された側溝の下層から出土した。(1) は、k区西端、標高一一・一二〇m、(2)は、1区東側、標高一一・ 一一一一mの位置から出土した(遺構図1・2地点)。他に、底部に 「伴」と墨書きされた杯Bが二条条間大路北側溝n区上層から出土し た(遺構図3地点)。なお、二条条間大路南側溝を北辺とする二条四 坊三町は、東西二分の一町ずつに分割されているが、木簡出土地点 に近い東側半分の宅地には、長岡京期の顕著な遺構は検出できなか った。

## 8 木簡の釗文・内容

- (1) • 是是是是是是□□是

・ 京京京□京京

(40)×(17)×5 019



(2)



(1)



(2)



0



(1)



(2)  
「五十□

(1)は、表裏にそれぞれ「是」「京」字を一列に書いた習書木簡である。上端が折損、下端が二次的にキリオリのため原形は不詳であるが、遺存部分は短冊形を呈する。「是」と「京」とは筆の太さが異なり、あるいは別筆かと思われる。また、「京」は字の全体がわかるものが少ないが、三字めは字体をえて「京」に作り、その四画めの運筆も一字めとは異なる。長岡京跡左京第一二〇次調査SD一二〇二八で、同じように「□□ 是是是」と一行に習書した木簡が出でている(本誌第八号)が、本例の方が繊細な字体である。

(2)は、上部が圭頭を呈する木簡の上端左半と考えられる。下端は黒く焦げており、本例はその焼け残りの部分である。

## 9 関係文献

野島 永・岩松 保「名神高速道路関係遺跡」(財京都府埋蔵文化財調査研究センター『京都府遺跡調査概報』七八 一九九七年)

(野島 永・堀 大輔)

『長岡京左京出土木簡』(調査報告第六冊)の刊行  
京都市埋蔵文化財研究所編集・発行  
  
(財)京都市埋蔵文化財研究所による長岡京跡の調査で出土した木簡の待望の報告書が刊行された。一九八八年から翌年にかけて長岡京左京一条三坊六・十一町で出土した木簡を中心にも、同研究所設立の一九七六年から一九九五年までの間の一地点の調査で出土した木簡七〇二点(うち削屑五三九点)を収める。  
考察として、「左京第一二〇三次調査出土木簡の性格」(橋本義則)、「杣・木材の漕運・京内の津」(百瀬正恒)、「木簡の保存処理の方法と問題点」(岡田文男)などを併載する。

A4判 箱入り

木文編

一七〇頁カラーグラフ版二頁

図版編

モノクロ図版六〇頁(原寸写真、高精細印刷・中性紙使用)

限定五百部(残部僅少)

頒価四五〇〇円(送料一~四冊五〇〇円、五冊以上一〇〇〇円)

注文先

日本写真印刷株式会社

〒六〇四一八八七三 京都市中京区壬生花井町三

電話 ○七五一一八二一一八二一一

FAX ○七五一八二三一五三三一